



# 歴史学科

## ■ 大正大学の歴史学科はこんなところ！

3つのポイント

### 自らの手で歴史をひもとく

君たち自身に、「事件がおこった場所に行ってみる」「実物をまじかで見える」ことを体験してもらいます。そうすることによって、たくさんの情報のなかから真実を見抜く力、本物を見きわめる力を養います。

歴史を知ることが現代を生きる私たちにとっても大切なことです。

### 充実した学習環境

わたしたちのいる3号館はグッドデザイン賞を受賞した建物です。そこには伝統のある歴史学科らしく専門的な蔵書が豊富に取りそろっています。そこではいつもたくさんの学生が自主的な学習をしています。実習室では、博物館学や考古学の実習がおこなわれています。

### 卒業後の多彩な進路

教員、学芸員、司書、考古調査士の資格が取得できます。資格をいかし、教員や学芸員として活躍する卒業生がいます。

一般企業への就職や大学院への進学など、目的を持って大学生活に取り組む君たちを応援しています！

3本の柱

### 日本史

日本の歴史のさまざまな人物やできごとについて、先行研究や史料を集め、それを分析し、みずから力で明らかにしていきます。史料は、古文書（昔の人が書いた手紙など）や古記録（貴族・武士の日記）などの文献史料が中心です。4年間をかけて、それらの史料を解読する力を身につけ、卒業論文を書きあげていきます。

史料を出発点とする「実証史学」が伝統として受け継がれています。

### 東洋史

中国の歴史、アジア諸地域の歴史を文献史料や出土史料など使って、総合的に学びます。そして、中国語をはじめとするアジアの言語を学ぶことで、君たち自身が東洋の政治、経済、思想、文化、社会を考えます。

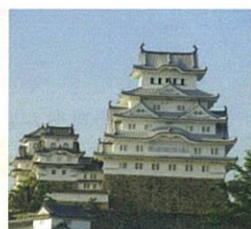
日本の文化に多く影響を与えたアジアの歴史を考えることは、アジアの未来をつくっていく君たちにとっても大切なことです。

### 文化財・考古学

日本と東洋の美術史と考古学を学びます。美術史は仏像やそれを荘厳する仏教工芸品を中心とした作品を、考古学は旧石器時代から古墳時代の石器や埴輪などの遺物をあつかいます。

文字だけではわからない歴史の事実や文化、価値観を作品・遺物から導き出します。

モノへの理解を深め、現場でのさまざまな体験を通して、モノの語る真実を聞き取る力を養います。





## もっと知りたい歴史学科！！

閲覧室は本がたくさんあるなあ。。。講義の予習やレポートの作成がはかどりそうっ



歴史を見る目を養う  
訓練をします  
日常の訓練をベースに教室の外に出て、研究のための知識と技術を磨きます。それが、主に夏休み期間におこなわれる合宿や見学になります。  
また、講義のほかに史料を読む勉強会・研究会があります。

なるほど！  
学びの場がたくさんあるんだね

### お城は生きたテキスト 日本史



戦国時代の史跡である丸岡城・福井城跡を見学しました。丸岡城の天守のなかは急な階段になっていて、机の上だけではわからない臨場感を味わうことができました。  
同じ釜の飯を食べたもの同士、絆を深める旅行になりました。

さすがは大正の歴史学科！！  
実証的に学べるね



### いざ鎌倉！ 日本史



中世を代表する古都・鎌倉でフィールドワークを行いました。明月院や鶴岡八幡宮などの有名な寺社や切通しなどの史跡をめぐることで、はるか昔にタイムスリップしたかのような気分を味わうことができました。仲間との絆も深めることもでき、充実したものになりました。この楽しさ、次に体験するのは君だ！

研究のアプローチのしかたはひとつではないんだね！

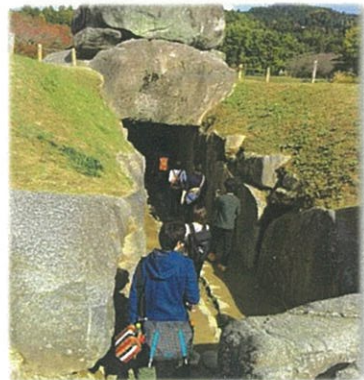


### 台湾へ行くの巻 東洋史



台湾の台北へ故宮博物院・龍山寺孔子廟など見学に行きました。現在の生きた台湾の姿を知るため、また、中国語を習得するために夜市へ郷土料理を食べに出かけたりしました。日本に帰ってきてからより一層勉強をする意欲がわきました。

### 遺跡探索 in 大阪・奈良 文化財・考古学



講義のテーマである弥生～飛鳥時代の重要な遺跡と遺物を観察しました。奈良県明日香村では高松塚古墳、天武・持統天皇の合葬陵、亀石、川原寺と一気にサイクリングでまわり、蘇我馬子の墓と目されている巨大な横穴式石室の中に入りました。

### ホンモノのブツゾウを見る 文化財・考古学



仏教美術は日本の美術のなかでも特に大きな部分を占めています。講義では博物館・美術館・寺院など実際にホンモノを見る機会を多く取り入れています。よく観察すると、顔の表情だけでなく、髪型、着物など時代ごとにさまざまあることがわかります。

歴史を学ぶと人生が豊かになるよ



### アジアの語学をものにする 東洋史



「文献講読」は、何と言っても先生との距離の近さが魅力。じっくりみっちり、漢文読解の技術を学べます。難解な語学も、対話形式だと一気に習得が早まります。また、通常の授業とは別に、中国語、モンゴル語、満洲語などの勉強会も行われています。これら語学のスキルは、社会へ出た時に一目置かれること間違いなしです。

過去があって今がある  
当たり前だけど、大切なんだ



### 大学で寺子屋!? 日本史



江戸時代の「読み、書き、そろばん」といえば、寺子屋ですが、それがこの学科にもあります、というのも、授業とは別に、江戸時代の史料を読む勉強会の通称です。この勉強会では、筆で書かれた独特の文字を読み、実際に書かれている内容を深く学ぶことができます。史料を読み進めていくのは大変なことですが、読みきったときの達成感は格別です。

### 歴史を歩いて感じよう 日本史



玉川上水と新田集落（東京都立川市、小平市）のフィールドワークがありました。江戸時代の生活用水や農地開拓の歴史を学ぶことができました。史料を読むことだけが歴史の勉強ではありません。

実際にその場所に行き、自分の目で見て、確かめる。アクティブに勉強をしてみよう！

### 大学周辺も調べてみよう 日本史



大学の周辺にも近代史が勉強できる場所があります。JR板橋駅前には新撰組の近藤勇の墓があり、巣鴨駅の近くにある染井靈園には明治時代に活躍した政治家や小説家の墓があります。

いつもとおりに過ぎてしまうようなところが実は勉強の場であることもあります。

### 学年をこえて研究発表 東洋史



夏休み前に東洋史コースの学部生、大学院生があつまり、「修論・卒論合同中間報告会」をおこないます。自分で考え、作業したことを限られた時間のなかで、的確に伝えることを学びます。先輩、後輩のタテのつながりを大切に、お互いに刺激あっています。

### トーハク見学 文化財・考古学



1年生のはじめにコース全員で東京国立博物館へ見学に行きます。第一線で研究をしている専任教員が仏教美術のみかた、考古遺物のみかたをレクチャーします。最初はモノのみかたがわからなくても大丈夫です。わからないことがあったらどんどん聞いてください。

### 京都で平安貴族 日本史



夏休み期間に2泊3日の見学旅行がありました。参加者があらかじめ調べて作成してきた資料にもとづいて三十三間堂・六波羅蜜寺などの寺院や神社を見学しました。

風俗博物館では、平安貴族の衣装を着けるなど、貴重な体験を通して歴史への理解を深めました。

学問が自分のことや社会を見つめる  
きっかけになるとうれしいな



# 学科の行事・卒業後の進路

ここでは、学科の1年間の予定と進路についてお伝えします!!



## 4月 入学式・ガイダンス

新生は初めて自分で時間割を作成します。なれない履修で困らないための各種ガイダンスがあります。



## 4~7月 春学期

### 7月 試験

### 7・8月 見学旅行・合宿

### 9~1月 秋学期

### 11月 史学会大会

#### 史学会ってなに?

史学会は歴史学科の教員と学生・大学院生と卒業生が母体となっている学会です。史学会は毎年、年1回の大会の開催と会誌『鶴台史学』を刊行しています。



発表の場もあるんだね!

## 12月 4年生卒業論文の提出

#### 卒業論文ってなに?

自分で興味のあるテーマについて学び、問題をつかみます。

そして、得たさまざまな情報を分析し、自分自身の結論を導きます。

分からなかったり、知らなかったことが、十分に理解できて自分のものになった時、「一生懸命やってよかった!」と思えますよ。

## 1月 試験 3月 4年生学位授与式

毎年3月15日に学位授与式がおこなわれます。2015年度は170名を超える学生が社会に巣立っていきました。

大正大学の歴史学科で学んだことを存分にいかして活躍している先輩たちがたくさんいます。



## ●卒業生の活躍 —ブログから—

歴史の知識をいかして学芸員や教員への道を選んだ先輩、歴史を学ぶノウハウをいかして公務員、一般企業に勤めている先輩たちがたくさんいます。

## 吉田智哉さん

群馬県 東 吾妻町教育委員会

私は1999年に当時は史学科と呼ばれていた学科に入学しました。講義はもちろん、学外でもどれだけ考古学にふれられるかということに力を置き、休みを利用しては発掘現場に出て、土日は研究会や博物館の企画展へ顔を出して、常に最新の情報を入れ、経験を積むことに必死だった記憶があります。また学内でも考古学研究会のサークルに参加したことで、たくさんの先輩方と交流し、仲間も幅広く増えました。

\*\*\*

現在は群馬県東吾妻町の文化財保護担当として、遺跡の発掘調査に従事するとともに、史跡・名勝・天然記念物や民俗芸能、有形・無形文化財と、文化財と名のつくものを幅広く取り扱っています。学生の頃、考古学に限らず、文献史料、石造物など、自分の興味をもったものは進んで実物を見るように努めてきた経験が今の仕事に生きていていると感じます。

\*\*\*

講義での学びも大事なのももちろんですが、ぜひ自分から進んで多くのモノ、実物を見て、感じて、体験してほしいと思います。学問は自分から歩み寄ることが大切です。受け身ではなく積極的に。それが一番大切なことだと思っています。

学問はかならず役にたつことがわかったよ!



## 有山佳孝さん

群馬県毛呂山町立歴史民俗資料館 主任

私は、2002年に入学しました。講義で、飛鳥時代から鎌倉時代の仏像をスライドを見る機会があり、各時代の仏像にはそれぞれ特徴があることがわかりました。人々が仏像に求めた美とは何なのか、とても興味がわき、それから仏像の研究をはじめました。

\*\*\*

講義だけでなく、積極的に寺院や博物館へ足を運び、実物をみたり、調査へ参加し、知識と経験を得ることを意識して取り組みました。調査では、京都の醍醐寺や各地の仏像の学術調査で、貴重な文化財、資料を取り扱う機会に恵まれ、歴史・文化財を学び、守ることについて考える機会を持つことができました。

\*\*\*

いまの主な仕事は、企画展・小学生向けの体験学習・講座の運営をおこなったり、専門的な内容をいかにわかりやすく伝えるには、どうしたらいいか、いつも頭を悩ませています。文化財というモノを守る仕事ですが所有者の方とのコミュニケーションを図ることを大切に、業務に取り組んでいます。

\*\*\*

いつもさまざまな仕事があり、わからないことだらけで、研鑽の毎日です。これから歴史を学ぶみなさんには積極的に自分から動き、モノを見て、体験し、多くの知識、経験を積んでほしいと思います。歴史の関わり方は、一つだけではありません。真剣に学問に向き合うことで、様々な可能性に出会えると思います。



歴史の道100選に選ばれた古道鎌倉街道上道

\* ブログ随時更新中 \*  
<http://www.tais.ac.jp/>



大正大学 90th Anniversary  
スガモで祝う日本の未来。

編集 大正大学文学部歴史学科  
発行日 2016年 5月 31日